

# Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年1月9日発行 No.60

『そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。水の中から上るとすぐ、天が裂けて“霊”が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。』  
(マルコによる福音書 1:9~11)

<昨年末、最後に行われた仕事納め感謝礼拝!! これまでの歩みを新しい年の力に替えて…。>

KIUの皆様、新年明けましておめでとうございます!! 新しく迎えた2018年も、どうぞキリスト教センター、そしてチャペルの活動をどうぞよろしくお願いいたします!! m(\_ \_)m

新しい年に心を向ける前に、ぜひお伝えしておきたい昨年末のニュースがあります!! 12月28日に行われた「仕事納め感謝礼拝」です!! ここには50名近い参加者(去年は30名そこそこ)が与えられ、皆で心を一つにしながらい今年一年の働きを締めくくることができました!! いつも余分に作成する式文もギリギリ…という嬉しい驚きを胸に、まさに喜びのメッセージである「第九」の第4楽章(歓喜の歌)から奨励を担当させて頂きました。

2017年を振り返る時に様々な出来事がありました。新しく迎える2018年は、全国の私学にとって「厳冬期」と呼ばれるような事態になる事が年末の新聞でも報じられています。今や急激な少子化に加え規制緩和に伴う学校数の増加で、私立大の約4割が定員割れ(短大は約7割!!)を引き起こしています。そのような厳しい状況下にあいながらも、KIUの歩みが支えられ、守られ、このようにして年末年始の休暇を迎える事ができた恵みを、まずもって感謝したいと思います。当然、そのような厳しい波はKIUにも押し寄せることでしょう。しかし、そのような時こそ、私たちの土台にある建学の精神を覚えつつ、その具現化に向けて教職員が一丸となって行きたいと心から願っています。



多めに用意した式文が無くなるほどの出席者が与えられました!! 感謝!!

「第九」から見えるメッセージ

また、2017年を振り返る時に注目したい数字があります。4月からの昼礼拝出席者総数は、3663人(総礼拝回数128回、平均28.6人)でした!! この数字は、お昼の礼拝に出席して下さった皆様のご協力あっての事であり、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました!! 毎日行われる昼礼拝は、キリスト教学校における大切なライフラインです!! 2018年も様々なプログラムを用意し、昼礼拝を盛り上げていきたいと考えていますので、ぜひ覚えてご参加下さい!!



2018年、KIUは50周年を迎えます!!

## <先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています。

12月18日(月) テーマ:「金(ゴールド)について」 小門 陽(リハビリテーション学部)

アインシュタインは有名な理論物理学者だが、彼の提唱した相対性理論が元になって、地球から一億光年以上離れた所で起こった質量の大きな非常に重たい星同士の衝突が、大きなひずみをもたらした事が判明し話題になった。巨大な実験場で実際に検証がなされると、実際に衝突した所において、希少鉱物とされる金(ゴールド)なども発生していることが分かり、近い将来、これらの鉱物を量産できるようになるかもしれない…とのことであった。自然科学の世界は、まだまだ分からない事が多くあり、それらが新しい発見や更なる研究において深められ検証されていく事が楽しみだ。

12月19日(火) ※この日は2017年最後の音楽礼拝!! 聖歌隊の歌声に耳を傾けました!!

12月20日(水) テーマ:「世が乱れ狂いし時に」 野間 光顕(チャプレン)

チャペル入り口にイエス誕生の様子が模された「クリフ」と呼ばれる人形が飾られている。クリフとは、馬小屋で生まれたイエスがベッドの代わりに寝かされた飼葉桶を指す。クリスマスの定番とも言えるこの風景をよく見ると、この時代が大きな混乱の中にあっただことが分かる。武力で支配を広げるローマ帝国、その皇帝が下した身勝手な命令で国中は大混乱に陥る。結婚したばかりのヨセフとマリアも、大きなお腹を抱えて長い距離(一説によれば140km以上!?)を旅した。旅の途中、家畜小屋で出産するマリア。汚く、臭く、新しい命が誕生するのに最も相応しくない形で救世主はこの世に現れる。私たちの生きる社会も、様々な混乱が生じているが、そんな只中にこそ救い主が現れて下さる。先行きの見えないこの時こそ、主の示される真の希望を胸に留めながらクリスマスを迎えたい。

12月21日(木) テーマ:「学院創立者 八代斌助の想い」 高瀬 一史(経済学部4年)

私は、現在大学のアルバイトでKIU創立者である八代斌助師父の資料編集に携わっている。資料に目を通すと、大学創立にあたっての金銭的な問題や、土地の問題、行政との連携など、その苦勞に加えて八代斌助師父が抱かっていたKIUへの想いがひしひしと伝わってくる。全ては、建学の精神である「神を畏れ、人を恐れず、人に仕えよ」に凝縮されている。自分の弱さを認められる強さ、権力に屈しない強さ、人を助けられる強さ、そんな人間を育成したいという強い想いで、八代斌助師父はこのKIUを建てられた。私たちは、様々な理由や背景を経て、このKIUへの入学を自分で決めたように思っている。しかし今日の聖句には「あなたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたを選んだ」とある。私達は、もしかしたら見えない大きな力によって必然的にこの場所に集められているのかもしれない。そのような場所であるKIUが、建学の精神と共にこれからも繁栄していく事を心から願っている。



12月22日(金) テーマ:「交響曲第9番に隠された秘密」 野間 光顕(チャプレン)

年の瀬が迫るとよく耳にする「第九」だが、なぜ年末に演奏されるようになったのか? それには戦争が大きく影響している。ある時は、第一次大戦が終わったドイツで、またこの日本でも第二次大戦後の混乱の中で演奏され、多くの聴衆の心を喜びで満たし勇気付けた。この響きがなぜここまで人々の魂に力を与えるのか? それは苦しい状況にある人を支え続ける大きな力の存在があるからに他ならない。イエスは「救世主」といわれてもスーパーマンのように華々しくなく、むしろ嘲笑と蔑みの中、人々の罪や弱さを背負って苦しみ抜いて殺される。しかしその命によって、人間と神とが再び繋がる道が拓かれる。今年一年の歩みを振り返る時、この世界の抱える混乱に加え、己自身の抱える弱さや至らなさが悲しく胸に響く。しかし、そんな中にあっても私たち一人ひとりの命を支え導かれる存在がある事を覚えつつ、感謝と希望を胸にこの時を共に過ごしたい。(文責:野間 光顕)